

手作業だからこそできる「一生遊べるカヌー」でやさしい旅を届けたい

有限会社フジタカヌー 京都府相楽郡笠置町

■ファルトボートを日本に普及させたいと起業

京都府笠置町の有限会社フジタカヌーは、ファルトボートと呼ばれる組み立て式のカヌーを自社で製造販売する世界でも数少ないカヌーメーカーだ。バイクやモーターボートを手作りするなど新しいもの好きだった藤田清氏（現代表取締役、藤田亮^{たすく}氏の父）は、1936年、高木公三郎氏がドイツから持ち帰った大きくて重いカヌーに触れ、日本人に合う軽量でコンパクトなファルトボートの開発に取り組み、1976年にカヌー製作会社（現、有限会社フジタカヌー）を設立した。一人でも多くの人に本当のカヌーの楽しさを知ってもらいたいとファルトボートの普及に全力を注ぎ、この思いは亮氏にも受け継がれている。

■長年愛用できる『一生遊べるカヌー』

同社のカヌーの特徴は、基本の安全性は押さえながらもあくまでシンプルに作られていること。過酷な環境で使用されるカヌーは必ずメンテナンスが必要となるが、シンプルに作られているからこそツーリング中の不測の事態にも対応しやすい。同社工房では、スタッフが全ての行程を1つ1つ手作業で組み立てている。また、自社で製造したカヌーの部品はすべてストックされているため以前に購入されたカヌーであっても修理の依頼に迅速に応えることができることから、長年愛用しているユーザーも多い。同社は初心者からベテランまで参加できるカヌースクールや、キャンプ泊で全国の川や海などをツーリングするカヌーツアーなどカヌー人口の普及に尽力しており、自社のカヌーについての様々なアイデアや意見を直接利用者から聞くことができる環境も同社の強みとなっている。

また、同社では20年以上前からカヌーの製造過程で出る端材のアップサイクルに取り組んでい

る。カヌーのデッキ部分に使用している生地^{（生地）}の端材は防水性と耐久性に優れているため、アウトドアや雨の日の荷物の持ち運びにも利用できる防水バッグ「ドライバッグ」として販売している。現在は笠置町のふるさと納税の返礼品としても活用されており「カヌーの製造過程で出る色々な端材を何かに利用で



カヌーの端材で作られた「ドライバッグ」

きないかと、いつも考えている」と亮氏は話す。

■カヌーで自然を感じる“やさしい世界”を作りたい

カヌーはヨットやボートと異なり、人間と水面との距離が近く、まるで自分の体が自然の中に飛び込んでいくような感覚になる。カヌー遊びはまさに自然と一体となる瞬間を味わうことができる。亮氏は「カヌー人口はまだまだ少ない。もっと多くの人がカヌーを体験し、自然に触れる時間を作ってほしい。カヌーで川下りをしながら、ゆっくり流れる時間の中で自然の雄大さや人との出会いを通して自分も自然の一部だと感じられれば『やさしい世界』が生まれるはず」と語る。

（村井 渚）



（左から）自然と一体となれるカヌースクール/1つ1つ丁寧に作られるカヌーのパーツ



有限会社フジタカヌー

〒619-1303
京都府相楽郡笠置町佐田 45
TEL: 0743-95-2507
FAX: 0743-95-2962
URL: <https://www.fujitacanoes.com/>



藤田亮代表取締役